

令和5年度
自己評価報告書

令和6年3月31日

学校法人 城西学園
城西放射線技術専門学校

- ・学則第4条に基づき自らの運営状況について自己点検・評価を実施した。
本校の教育活動の状況を自ら点検・評価し改善点を今後の教育活動に活かすことを目的とし、毎年実施するものとする。
- ・評価の結果、改善を要する項目は学校長の改善指示のもと担当者は速やかに対応し、改善状況を学校長へ報告するものとする。
- ・評価は、「専修学校における学校評価ガイドライン」を基に4段階評価（4：大変良い 3：良い 2：あまり良くない 1：良くない）とした。

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

本校は現在地にて昭和 35 年 4 月 1 日付、城西レントゲン技術専門学校として発足

昭和 46 年 4 月 1 日付、城西放射線技術専門学校と名称変更

昭和 51 年 6 月 1 日付、私立専修学校として認可

診療放射線学科のみの夜間課程単科校であり、修業年限は 4 年である。診療放射線技師養成校として現代医療に求められる知識と技術の習得、信頼される人間性を養うということを教育の柱としている。

(1)入学時から一貫して国家資格取得が教育目標。

(2)城西学園校訓に「報恩感謝」を掲げており、恩や恵みに対して感謝の気持ちを持つことをいう。

これまでに受けた恩や恵みに感謝し病んだ人を思いやり医療人として恩に報いる、奉仕の精神を持つ医療人の育成教育を目標としている。

(3)本校の入学受入れ方針は以下の通りである。

- ・ 専門学校で学ぶことに対して確かな目的意識を持ち、学ぶ姿勢を大切にする方
- ・ 社会人としての自覚を持ち、職場や学校での言動、身だしなみについて礼儀や常識を心得ている方
また、そのことについて学ぶ姿勢を持つ方
- ・ 心身ともに健康な方で、公私に関わらず、他者への思いやりを持っている方
- ・ 医療の現場はチーム医療が重要であり、コミュニケーション能力・連帯感を常に意識している方
- ・ 医療および医療技術に関心を持ち、適正があると考えている方

(4)職業教育を行う上では、病院等と連携した授業・実習が不可欠である。

学内における授業に加えて、学外での関連企業の工場見学、病院見学等を通じて専門性を養い、早い段階から医療現場における診療放射線技師の在り方を考える機会を与えている。

【課題・改善策】

- ・ 診療放射線技師養成校として開学以来、一貫した目標を掲げており、本校に係る全ての人に周知されている。今後は社会で求められているニーズに応じた医療人育成について教職員が共通認識を持って取り組んでいく。
- ・ 単科校の専門学校としてのメリットを活かしつつ、学校法人城西学園として城西大学附属城西高校と、姉妹校として日本医療科学大学と連携した教育環境を提供できるよう長期計画を構築していく

	評価項目	評価
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められている	4
2	教育理念・教育目標・育成人材像は専門分野におけるニーズに伴っているか	3
3	理念達成に向けた教育活動を行っている	3
4	教育理念・教育目標が周知されている	2

基準 2 学校運営

- (1)原則、隔週実施される全員参加の職員会議では教職員が議題を発案・内容発表。会議後は議事録を作成し、次回会議の冒頭で前回の議事録の実施状況確認している。
- (2)城西学園理事会・評議委員会において本校の職員は評議員・事務局として出席し、事業計画や運営方針などの決定事項を職員会議にて報告し、教職員全員へ周知徹底している。
- (3)期初に教務部、事務部の「業務分担表」を作成して担任・副担任ならびに学校行事を含めた担当を明確化し、学生指導に向けて各人が責任を持って取り組むようにしている。
- (5)学校法人 城西学園（中学・高等学校、専門学校）として規程や運営については連携をとっており、教職員がクラウドシステム利用により情報の共有化を図っている。

【課題・改善策】

- ・ネットワークが脆弱な時もあるため、設備を強化する必要がある。
- ・人事・給与に関しては適宜見直し、職場環境に適しているか確認を行う。
- ・施設やネットワーク管理など、法人として連携を取って対応する。

	評価項目	評価
1	目的に合った運営方針が策定されている	3
2	運営方針に沿った事業計画が策定されている	3
3	運営組織や意思決定機能は規則等において明確化され、有効に機能している	2
4	人事、給与に関する規定等は整備されている	3
5	組織整備など意思決定システムが整備されている	2
6	教育活動に関する情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っている	2

基準3 教育活動

目標の設定

- (1)本校のカリキュラムは教育課程に則り、国家試験合格に向け十分な内容で体系的に構成されている。
各科目の教育目標はシラバスに明記し、授業初日に学生へ改めて周知している。
- (2)学生より専任教員・非常勤講師の授業評価のアンケートを無記名で実施し、教育の質を高めている。
その結果をフィードバックし各教員には授業の改善点等の提出を依頼。学生の意見を考慮した授業改善に活用している。
- (3)成績評価・単位認定の基準は「学生便覧」に記載しており、入学時のガイダンスにて周知している。
また、進級判定・卒業判定は、教職員全員が参加。進級判定会議・卒業判定会議にて規定に基づき行われている。
- (4)本校にて編集した実力・模擬・総合試験問題集を全教員、3・4年生に配布し、授業と自習に役立っている。
- (5)診療放射線学科のみの単科校である本校は少人数のため、教員間で授業の進捗状況や方法について日常的に話し合われており、職員も含めて改善についての意見交換をしている。
- (6)実習前研修として、外部講師を招いて病院での接遇や社会マナーを学ぶ機会を設けている。

【課題・改善策】

- ・授業終了後に日課表の記入を教員が行っているが、熱心な指導のため記入を失念するケースも多い。
職員が記入確認を行うなど、気を配る必要がある。
- ・勉強会の参加を奨励しているが、セミナーが遠方、勤務日に実施されるなど様々なケースがあるため
費用や時間の面での調整や協力が必要。
- ・新カリキュラムへの移行期ではあるが、成績評価・単位認定とも問題なくスムーズに行われている。

	評価項目	評価
1	理念・目的に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めている	3
2	学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3
3	授業評価の実施・評価体制は整っているか	2
4	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確か	4
5	資格取得に関する指導体制は確立されているか	4
6	教員の資質、指導能力向上のための取り組みが行われているか	3

基準 4 学修成果

- (1) 昼間に医療機関でアルバイトに従事している者も多く、病院実習の際には患者接遇や病院内での対応について評価されるケースも多い。
現場で得られた知識が授業にも活かせること、卒業後にアルバイト先に就職する者など働くことがプラスになることもあるため、勉強の妨げにならない程度に医療機関へのアルバイトを紹介している。
- (2) 入学者全員が国家試験に合格することが開校以来の目標。退学に繋がる理由は担任がヒヤリングし、解決に努めている。退学者の前兆として欠席が多く、担任からの連絡にも応じなくなる。無断欠席や欠席過多の者は担任が保証人と連携し、本人の学習意欲と継続の意思確認を行っている。
- (3) 臨床実習施設へ訪問の際に情報交換を行っているほか、同窓会ネットワークを活用し、就職希望者には決定まで就職支援を行っている。また、卒業後に離職した卒業生に対しても同様の支援をしている。
- (4) 就職活動、病院実習の実習前研修としてマナー研修を行っている。

【改善策】

- ・欠席過多者との面談で精神的・経済的に苦境に立たされていると判断されるケースも多く、退学率の軽減は図れなかった。学生が置かれている状況において最適な対応策は何か、教職員が考えサポートしていく。
- ・在學生は担任とコミュニケーションをとることがメインとなっており、担任教員の退職後は卒業後の状況把握が難しい。在学中から卒業後も活動を報告できるようなシステムを検討する。

	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られている	3
2	資格取得率の向上が図られている	3
3	退学率の軽減が図られている	1
4	卒業生・在校生の社会的な活動や評価を把握している	2

基準 5 学生支援

- (1) 就職等進路についても、国家資格の取得が大前提であり、取得しない場合は内定が取り消されるため、就職責任者だけでなく担当教員と連携し、成績と就職活動について個別指導をしている。
卒業後も在校生と同様に就職支援を行っており、転職希望の学生の相談にも応じている。
- (2) 在校生は希望者や状況に応じて心理カウンセラーによる面談を実施し、精神面でのサポートにあたっている。
- (3) 学校生活の状況を把握してもらうため前・後期試験終了後、保証人宛に「定期試験成績表」（科目毎の点数と単位取得の可否）を送付し、学生サポートの協力を仰いでいる。
- (4) 教員のメールアドレスを公開し、授業の質問や個別相談する際に役立てられている。
- (5) 本校入學生は現状社会人が 50%強を占めており、学習にブランクのある者も多い。事前学習の課題としてオンラインで行う自主学習 eラーニング（1年間利用可）を設け、学習計画表と共に事前学習・自己学習の場を提供している。わからない問題には入学前からメールで質問することも可能。理数科

目が苦手な学生にも活用されている。

(6)学校独自の奨学制度はないが、授業料の延納など支払いを期日までに出来ない学生については分納だけでなく、相談に応じた金額の支払いを提案するなど、柔軟に対応している。

これらの情報は担任とも連携をしており、経済的問題が学生生活に無理をしていないか面談等で確認している。

【課題・改善策】

- ・ 授業料納入については学生ごとに状況が異なる。金銭的に厳しい学生はアルバイト時間を増やす結果、勉強についていけなくなるケースもある。経済的問題には担任と事務が連携して相談に応じているが、実質的な解決方法はないため一人一人の状況に合わせた対応が必要となる。
- ・ 社会人を経て入学する学生も多く、保証人が名ばかりとなることもある。学生本人が責任を持って学校生活を行っている者もいるため、全学生を一律で行うことは難しい。

	評価項目	評価
1	進路指導に関する体制が整備されているか	3
2	学生生活に関して相談できる環境は整備されているか	4
3	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
4	学生の経済的な支援体制はあるか	2
5	保護者と適切に連携しているか	2
6	卒業生への支援体制はあるか	2
7	社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3

基準 6 教育環境

(1) 設備や清掃等のメンテナンスを定期的実施。機器の管理補修も適宜に行われている。

校舎はすべてバリアフリーでエレベーターを完備。休憩所には電子レンジがあり、働きながら学ぶ学生に役立てられている。

(2)法令で定められている病院実習は、各施設の担当教員が事前に受け入れ先と十分な協議をし、実習調整担当教員が全体を管理している。1年次には診療放射線技師の業務を見学するため病院見学を実施しモチベーションの維持向上に努めていたが、近年はコロナウィルスの影響により中止を余儀なくされていたが、2024年は再開するよう各施設に依頼している。

(3)「学校法人城西学園 消防計画」を作成し、消防設備等についても、法定点検を実施。学内に設置している自動販売機は緊急時飲料提供自動販売機であり、非常災害時に対応可能。災害時には防火・防災管理者の資格を取得した職員が対応する。

(4)図書室にはインターネット閲覧可能なパソコンが6台備わっており、午前10時から使用できる。書籍は定期的に見直され、教員がニーズに合わせて選定し購入している。

(5)病院実習先は平成28年に10施設追加され、実習後に授業を受ける夜間課程の学生にとっての選択肢が増え、効率化が図れた。

(6)姉妹校の日本医療科学大学と合同で臨床実習連絡会を実施しており、カリキュラムの変更や実習指導など意見交換を行っている。

【課題・改善策】

- ・図書室の書籍選定が多忙により滞っているため、次年度は購入して学生のニーズに応える。
- ・授業時間は夜間のため非常灯の明かり以外で充分か、避難訓練の際に消灯して確認する。

	評価項目	評価
1	施設・設備は教育上、十分に対応出来るよう整備されているか	3
2	学外の実習やインターンシップについて十分な教育体制が整備されているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	2

基準 7 学生の募集と受け入れ

- (1) 夜間課程の本校は社会人から入学する学生も多いが、募集活動は難しい。社会人から入学した学生の中には医療機関で本校の卒業生と働いている人も多いため、知人に勧められる学校であり続ける教育をすることも必要とされる。
- (2) 学校説明会実施後は教職員・学生説明員が改善点などを報告書に記載し、改善に努めている。
- (3) コロナ禍より開始したオンライン説明会を引き続き継続。遠方の方や家族で参加される方に好評だった。2024年度もハイブリッドで実施し、多くの方に参加していただけるよう努める。

【課題・改善策】

- ・社会人からの入学者も多い本校では、広報活動が難しい。入学者の中には医療関係者やその知人などもあるため、学校評価が入学希望者に繋がるので学生にとって魅力ある学校づくりをしていく。
- ・入学のボーダーラインにいる学生が卒業時に優秀な成績を収めるケースもあるため、入学選考は難しい。筆記試験以外にも面接で熱意などを確認し、総合的に可否を判断していく。

	評価項目	評価
1	学生募集活動は、適正に行われているか	3
2	教育成果の情報提供は正確に伝えられているか	2
3	入学選考は、公正かつ公平な基準により行われている	2
4	学納金は妥当なものとなっている	4

基準 8 財務

- 1) 借入金はなく、中長期的に見た財務基盤は安定している。
- 2) 財務については年に数回行われる会計監査、学校法人で監事による監査も行い適切な対応をしている。
- 3) 授業料に関する規定の順守は基本だが、学生個人の状況を考慮し担任とも連携を取った上で柔軟に対応している。学納金の未納はない。

【課題・改善策】

- ・高等教育の修学支援新制度を利用している学生のうち、経済的な問題以外で退学した者や昼間に収入が増えたため対象から外れた学生も多い。入学後に働くことで昼間に働くことの出来るメリットがデメリットになっている。
- ・教育設備や医療機器は高価な物も多く、長期的に購入計画を立てる必要がある。
- ・安定した財務状況には安定した学生数が不可欠。そのためには、入学した学生が合格して卒業するまでしっかりとサポートしていく。

	評価項目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
3	財務について、会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

基準 9 法令等の遵守

- 1) 関係法令及び設置基準等を遵守し、関係省庁の指導のもとに適切に学校運営されており、関係省庁からの通知、通達等の内容を学内で共有し、報告等も適切に対応している。
- 2) 個人情報の利用について目的を定め、取り扱いについての同意書を取っている。この取り扱いについては教職員周知し、遵守を心掛けている。資料請求者、学校説明会・体験入学者等の個人情報は目的以外には一切使用していない。
- 3) 学内で使用するパソコンに対して情報流出保護システムを導入している。
- 4) 自己点検・自己評価は年に1度行われているほか、全教職員が参加する職員会議で問題提起をして対応して情報共有している。
- 5) SNS 利用に際して責任が伴うことを入学時と実習前に指導している。また、入学時には個人情報の利用目的を明確にし、学生へ同意を得ている。

【課題・改善策】

- ・同窓会へ卒業生住所の送付や卒業アルバムに氏名・顔写真掲載など、これまで問題とされなかった案件についても否定的な意見があった。事前承認は取っているが拒否する者への対応を検討する必要がある。
- ・在校生の母校や卒業生がどの勤務先でどのような業務に従事しているかを知りたい、というニーズもあり写真付きで掲載している。本人了承だが個人情報観点から問題はないか検討する。

- ・自己点検ならびに自己評価を行っているが、問題の解決について職員会議を通じて進捗状況を確認していく必要がある。

	評価項目	評価
1	法令、設置基準を遵守し、適正な運営がされているか	3
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
3	自己点検・自己評価の実施と問題の改善に努めているか	2
4	自己点検・自己評価の結果を公開しているか	4

基準 10 社会貢献・地域貢献

- (1) 城西中学・高等学校の文化祭（しいの木祭）実施時、本校も医療関連の公開講座および種々の医療機器の見学・体験実施を通じて地域住民と交流を図っている。
コロナ禍で2019年以降は実施していなかったが、2023年は実施し好評を得た。
- (2) 夜間校である本校は昼間に働いている学生が多く、社員としてフルタイムで働く学生もいるため、学業以外に充てられる時間自体が取れないのが現状である。
- (3) 学校に届くボランティア募集などは掲示している。

【課題・改善策】

- ・文化祭実施の際には機器操作の補助として在校生が来場者と交流を図っている。2024年度に実施する際にはより多くの方に参加していただけるよう、学生にもスタッフとして参加してもらえるように努める。

	評価項目	評価
1	学生の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	1
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
3	地域活動に積極的な参加をしているか	2